

◆アビッドテクノロジー：クリエイティブ・プロフェッショナルに向けた新しい Pro Tools、Media Composer、Sibelius のラインナップを発表

クリエイティブ・ツールファミリーの拡張を発表し、Avid の象徴的なソフトウェア、Pro Tools®、Media Composer®、Sibelius® の新たなラインナップを発表した。さらに、Avid の 140 万人のユーザー全員が利用できる Avid Connect アプリを発表した。PC、iOS、Android デバイスから利用可能で、各アーティストが検索、つながり、コラボレーションするためのワンストップの体験を提供する。Avid の Market Solutions 担当副社長、Alan Hoff は次のように述べている。「当社の広範なクリエイティブ・ツールを拡張することにより、楽譜作成、レコーディング、ミキシング、映像編集に携わる全ての人たちに、インスピレーションの邪魔をしない、業界標準のツールをお届けします。また、当社の無料の「First」製品を使って、数えきれない程のクリエイターがその才能を開花しており、今回楽譜制作コミュニティにもその機会を提供します」

現在、Avid の Sibelius、Media Composer、Pro Tools ソリューションは、クリエイティブな個人やチームのために、それぞれの段階で 3 つのエディションで利用できる。

新しい Pro Tools ファミリー

Pro Tools ファミリーは、音楽、映画やテレビのサウンドを作成するためのツールを提供し、世界中のアーティスト、プロデューサー、ミキサーの最高のネットワークとユーザーを結びつける。

- 発表以来、650,000 件以上ダウンロードされた Pro Tools | First は、キャリアをスタートしたばかりのクリエイターに向けて、無料で提供している。業界標準の Pro Tools と同じ合理化されたクリエイティブ・ツールセットを使用して、レコーディング、作曲、ミックスが可能です。さらに、クラウド・コラボレーションも利用可能。
- 業界で最もパワフルかつ包括的なオーディオ / MIDI ツールセットを提供する Pro Tools は、ミュージシャン、作曲家、エンジニア、ミキサーのクリエイティブ性を次のレベルに昇華させる。
- Pro Tools | Ultimate は、音楽とオーディオ・ポストプロダクションのための究極かつ包括的なツールセットで、Avid Complete Plugin Bundle と Pro Tools | MachineControl が標準搭載される。さらに、クラウド・コラボレーションの強化、そして、音楽、映画、テレビの世界で最もリスペクトされるコンテンツクリエイターの要望に応えるため、Dolby Atmos のイマーシブ・サウンドミキシングの統合も提供している。

新しい Media Composer ファミリー

Media Composer エディションは、映画、テレビを始めとする映像編集者が使用する業界標準の編集ソフトウェアを、キャリアのあらゆる段階で利用できる：

- 約 1 年前に発表された Media Composer | First は、100,000 以上のアクティベーションを誇り、編集を始めただばかりのエディターに、完全かつ効率的な制作ツールを無償で提供する。
- 高度な編集ツールを必要とする個人のプロ編集者や映画制作者に向けた Media Composer は、サブスクリプション版は月額 2,400 円（税別）となり、最大 24 のビデオトラック、64 のオーディオトラックなどの完全な機能セットを提供する。新しく洗練されたユーザー

インターフェイスにより、より強力なビデオ編集と 4K、8K、HDR のサポートが可能になり、編集者にクリエイティブな才能を最大限に引き出し、競争に勝ち抜くためのツールを提供する。クラウドサブスクリプションを介して自動的に配信されるこれらの最新機能は、常に利用可能。

- ポストプロダクション向けの最も包括的なソリューションを提供する Media Composer | Ultimate (サブスクリプション) は、Avid の比類ないコラボレーション能力、共有ストレージのサポートで制作チームを強化し、さらにプロジェクトの中で話されるすべての言葉を最大限に活用する Media Composer | ScriptSync® Option および Media Composer | PhraseFind™ Option を標準搭載している。
- Media Composer 永続ライセンスはこれまで通り利用可能。(Media Composer | Ultimate に付属するソフトウェア・オプションは含まれない)

Artist Community と Marketplace のための新しい Avid Connect アプリ

Avid は、アーティストに最も完全なクリエイティブ・ツールセットを提供するだけでなく、Avid Artist Community と Marketplace のための新しい Avid Connect App によって、クリエイティブな活動を支援する。2018 年夏に登場する Avid Connect アプリは、PC、モバイルデバイス、Avid クリエイティブ・ツール(Pro Tools、Media Composer、Sibelius) から、最も才能のある多様な Artist Community と Marketplace につながる。このアプリは、プロフィール、コネクション、プロジェクト、製品など、アーティストが必要とするすべてのものにすぐにアクセスできる。

アーティストは、自分の仕事を宣伝するためのポートフォリオを使ってプロフィールを構築したり、才能のあるユーザーとつながり、プロジェクトに接続したり、メッセージを交換、コラボレーションすることができます。Connect のユーザーは、さまざまな業界や製品のトピックに関するリアルタイムのディスカッションに参加できる「ラウンジ」にアクセスできる。Avid コミュニティでのやりとり以外にも、Avid Marketplace から互換性のあるツールを直接購入して、クリエイティブ性を高めることも可能です。Connect アプリで、Avid 製品を簡単に管理することができる。

◆アビッドテクノロジー：新しいポストプロダクションワークフローツールおよびソリューションを発表

小規模な編集チームからグローバルメディア企業に至るまで、より高度な統合、スピード、コラボレーションを提供する新世代のビデオポストプロダクションワークフローの革新を発表した。MediaCentral® で稼働する新しいポストワークフロー・ソリューション MediaCentral | Editorial Management は、業界をリードする Media Composer® 映像編集ソフトウェア、新しい Avid® Artist™ | DNxID ビデオ I/O ハードウェア、ソフトウェア定義ストレージ Avid NEXIS® と統合し、さらなるコラボレーションのためのアセット管理を実現する。

この緊密に統合されたスケーラブルなプラットフォームにより、編集、ストレージ、I/O アクセラレーション、およびアセット管理にま

たがる直感的なエンドトゥエンドのワークフローを使用して、クリエイティブチームが最高の作業を迅速に行い、4K/8K メディアやその他の要求の厳しいフォーマットで効率的に作業できる。

Avid の Market Solutions 担当副社長、Alan Hoff は次のように述べている。「プロダクションチーム、特にビデオポストプロダクションチームは、より高い解像度でより速く作業することが喫緊の課題です。4K/8K のコンテンツを制作するには、エンドトゥエンドのパフォーマンスと接続性、そして、チーム間でシームレスに連携する必要があります。Avid の次世代ポストプロダクションソリューションは、高解像度のワークフローを加速し、メディア管理業務を自動化し、クリエイティブな才能を開花させること、これらがかつてないレベルで実現されました」

Avid のワークフロー革新により、顧客は、増加するコンテンツ需要に対応するためにリソースを拡大しなければならない場合でも、アクセス(ライセンス)数を容易に拡張し、メディアサービスとモジュールを追加することができます。Adobe Premiere Pro CC を含む数多くのサードパーティ製製品との統合が可能になり、オープンでクラウド対応のポストプロダクションプラットフォームが次のように構成される。

• 合理化されたユーザーインターフェイスによる直感的なメディア管理

MediaCentral | Editorial Management は、チーム全体がメディア制作ワークフローに参加できるようにする包括的なコラボレーションプラットフォーム。小中規模のポストプロダクションと放送チームが、Media Composer に組み込まれたパネルや Web ブラウザ、モバイルデバイスからアクセス可能な、セキュアで信頼性が高く簡単に設定されたメディアワークフローを通じてコラボレーションすることを可能にする、シンプルなおセット管理ツール。アシスタントおよびプロデューサーは、編集管理の新しい HyperBin アーキテクチャによって、MediaCentral の HyperBins の作成と変更、ロケータとメタデータの追加、サブクリップの作成、その他のアセット管理タスクの実行を行うことができる。使いやすい Web ブラウザインターフェイスである Cloud UX は、編集者がメディアを見つけて管理する時間を短縮し、より多くの時間を費やすことができる。

• すべての編集者に向けた Media Composer ソリューション

○拡張性やカスタマイズ性の高いソリューションであらゆるタイプのプロジェクトに対応する Media Composer は、エディターのクリエイティブな才能を最大限に引き出し、競争に勝ち抜くために必要なツールを全て提供する。価格は、月額 2,400 円(税別)から使用できる。

○ポストプロダクションで最も包括的なソリューションを提供する Media Composer | Ultimate は、Avid の比類ないコラボレーション能力で制作チームを強化するだけでなく、プロジェクトの編集作業を加速し、映像素材の中で話される全ての言葉を最大限に活用する Media Composer | ScriptSync® Option、Media Composer | PhraseFind™ Option、さらには Symphony 等の、制作の流れを大きく変えられるオプションツールを提供する。

• ポータブルで手頃な価格の構成で完全な 4K I/O ソリューション

Avid の拡張された Artist I/O ファミリーに Artist | DNxID と

Avid Artist | DNxIP が追加された。新しい Artist | DNxID は、手頃な価格でポータブルな高解像度の 4K モニタリングを提供する。DNxIP は標準の IP ネットワークに接続し、Media Composer と施設全体の間でデジタル信号を効率的にルーティングできる。

• Avid NEXIS 共有ストレージの革新

Avid は、ポストプロダクション向けの強力なストレージソリューションのフルラインナップを提供する。Avid NEXIS | E2 SSD は現在 40Gbps のクライアントを備えており、4K ハイレゾリューションに最適なアクセス速度、スループット、信頼性を提供する。新しい Avid NEXIS | E5 NL は、プロジェクトが保留になった場合、または最終承認を待っている場合に、クリエイティブチームがオンラインからニアラインにメディアを迅速に移動できるようにする、高密度の保護されたストレージを提供する。Avid はこれらの新製品により、高性能な 8K ワークフローからプロジェクトアーカイブまで、ポストプロダクション向けに最も包括的な階層型ストレージソリューションを提供している。各 NEXIS 製品は Avid のメディアアプリケーション、サービス、ワークフローに緊密に統合されており、Avid NEXIS の管理、制御、監視のための新しい Web ベースの Avid NEXIS 管理コンソールアプリケーションが含まれている。Avid NEXIS | E5 NL は、Avid のメディアアプリケーション、サービス、ワークフローに緊密に統合されている。さらに、新しい Web ベースの Avid NEXIS 管理コンソールアプリによって、管理、コントロール、Avid | NEXIS インストールのモニタリングが可能。Avid NEXIS | E5 NL は、MediaCentral® | Cloud UX および Media Composer® から簡単にアクセスが可能になる。

◆アビッドテクノロジー：ニュース制作・配信を加速するための、クラウドベースのアプリ、サービス、ソリューションを発表

クラウドでニュースワークフローを加速するためのアプリ、サービス、ソリューションを発表した。これらのイノベーションは、どのようなデバイスでもニュース視聴者を呼び込む重要な機会を捉えるために必要なコラボレーション、アクセシビリティ、配信を最適化する。Avid は、ニュース組織がテレビ、ソーシャルメディア、その他のメディアへの最新ニュースの作成、管理、配信をこれまで以上に迅速に行うことを可能にしている。

• **Avid | On Demand:** 必要に応じてメディア制作機能を提供するクラウドサービスおよびソリューションプラットフォーム、Avid | On Demand により、メディア組織は、必要な機能をプロジェクトごとに最適な弾力性をもって、長期間にわたる実装や大規模な設備投資なしで、便利に導入することができます。

• **MediaCentral:** MediaCentral プラットフォームは、情報収集とコンテンツ作成からマルチプラットフォーム配信に至るまで、ニュース制作のための最も包括的なエンドトゥエンドのソリューションを提供する。完全にカスタマイズ可能でモジュラー化された MediaCentral は、あらゆるデバイスでアクセス可能な画期的なクラウドベースのユーザーエクスペリエンスを備えている。ワークフローモジュールとアプリは、幅広いメディアサービスとパートナーコネクタを提供している。すべてのユーザーは、完全に統合されたワークフロー環境で

接続され、すべてのメディアは、オンプレミス、プライベートデータセンター、またはパブリッククラウドを介して統一されたビューで取得可能。新しい MediaCentral アプリケーションには次のものがある。

- MediaCentral|Publishapp(提供開始): ジャーナリストとプロデューサーがオンエアコンテンツをウェブサイトやソーシャルメディアプラットフォームの視聴者に配信できるようにする。
- MediaCentral|Roundnapp(提供開始): ストーリーの複製、グループ化、関連付けライブニュースショー制作中のモニタ機能の実行を容易にすることで、プロデューサーはランダウンを管理し、ショーを制作できる。
- MediaCentral|Researchapp(2018年夏提供開始): ジャーナリストはニュースフィード、ソーシャルメディアなどのニュースコンテンツの取り込みを統合して最新の開発情報を記事に組み込むことで、ニュース収集を簡素化できる。
- MaestroTMNewsapp(2018年後半提供開始): MediaCentral|CloudU で使用可能な新しい Maestro News はどこからでも完全なグラフィックス制作ワークフローへのアクセスを提供する。ジャーナリストはクリップや画像を MediaCentral から Maestro | New のニュースグラフィックステンプレイトに直接ドラッグアンドドロップできる。これにより、リアルタイムのグラフィックス制作を加速する。
- x.news(2018年夏提供開始): Avid Alliance のパートナーである x.news は、MediaCentral SDK を活用して、ソーシャルメディアやニュースティッカーのフィードをモニタリングするためのアプリを統合し、ジャーナリスト、ディレクター、プロデューサーに独自の記事を制作することに役立つ。
- Avid NEXIS® | E5 NL (2018年夏提供開始): 新しい Avid NEXIS | E5 NL は高密度のオンプレミスのニアラインストレージソリューションで、ブロードキャストチームのアーカイブメディアへのアクセスを高速化し、高解像度アセットのプロキシをすばやくブラウズ、検索、選択することができる。この機能により、ニュースサイクルの変化に合わせて理想的なクリップを検索するだけで、大量の高解像度素材を復元する必要がなくなる。Avid NEXIS | E5 NL で即座に利用可能なプロキシを使用してラフカットシーケンスを作成し、必要なクリップだけをテープデバイスから部分的にリストアすることができる。まだすべての高解像度アセットが復元されていない状態でも、プロキシを使用して放映することも可能。これにより、ニュースチームは可能な限り最善のストーリーを1秒でも早くオンエアすることができる。
- Avid FastServe™ | Playout (2018年夏提供開始): ビデオクリップ、画像、モーショングラフィックス用の新しいファイルベースの再生サーバーである FastServe | Playout は、IP I/O と UHD 再生の両方をサポートし、IP と SDI の両方を同じ設定で使用できる。FastServe | Playout は MediaCentral ベースのニュースワークフローに深く統合されているため、即座にワークフローを改善し、コンテンツをローカルストレージにコピーすることなく、解像度が混在しているメディアをトランスコードすることなく Avid NEXIS から直接再生できる。
- Avid | Shared Library On Demand (available second half of

2018): Avid | On Demand クラウドサービスとソリューションプラットフォームの一部である、Avid | Shared Library On Demand は、ユーザーが MediaCentral プラットフォームを使用してコンテンツを保存、管理、検索が可能なメディアライブラリを提供する強力なクラウドベースのソリューション。編集者、ログ担当者、ディレクター、プロデューサー、アーカイブ担当者はすべて共通のライブラリに安全に接続することができる。共通ライブラリを使用すると、どのデバイスからでもメディアにアクセス可能。

- Avid | AI (2018年後半提供予定): Avid | AI は、Avid | On Demand クラウドサービス・ソリューション・プラットフォームの一部であり、コンテンツインデックスのための機械学習から、非常に精度の高い顔認識、シーンの検出、音声からテキストへの変換などを含む一連のクラウドサービスを提供する。Avid | AI は、Avid による開発ツールと、マイクロソフト社の Cognitive Services からのツールの組み合わせであり、MediaCentral プラットフォーム上に格納されているコンテンツの検索を驚異的なレベルで強化し、圧倒的な柔軟性をもたらす。
- Avid | Transformation (2018年後半提供予定): Avid | Transformation は、Avid | On Demand クラウドサービス・ソリューション・プラットフォームの一部であり、自動トランスコード、ウォーターマーキング、コンテンツのパッケージ化により、あらゆるプラットフォーム、デバイスに配信するための自動化された一連の変換サービス。Transformation サービスは Avid および、認定パートナーによって開発にされており、ユーザーはニーズと求める価格帯に最適なサービスを柔軟に選択できる。

◆アビッドテクノロジー：Avid | On Demand SaaS Platform が発表 クラウドのメディアワークフローを提供

オンデマンドでメディア制作機能を提供するクラウドサービスとソリューションプラットフォームである Avid | On Demand を発表した。Avid | On Demand により、メディア組織は、必要な機能をプロジェクトごとに最適な弾力性をもって、実装段階や大規模な設備投資なしで、柔軟に導入することができる。

Avid | On Demand により、チームはあらゆる場所・デバイスに向けたコンテンツを効率的に管理し、配信することができる。さらに、チームは多くのコンテンツ変換と品質管理タスクを自動化し、ジョブを完了するために必要なクラウドリソースのレベルを自動的にプロビジョニングできる。どのような状況においても、ユーザーはサードパーティのハードウェアを統合したり管理したりしなくても、必要なときに必要なリソースのみを購入することができる。

Avid | On Demand には、機械学習や cognitive services(認知サービス)をメディアに精通した方法で制作ワークフローに適用する新しい Avid | AI Suite が含まれている。さらに、Avid | On Demand クラウドソリューションには、どこからでもインデックスされたコンテンツライブラリを保存、共有、アクセスを可能にする Shared Library On Demand(共有ライブラリオンデマンド)が含まれている。また、新しい Editorial On Demand により、編集チームは、場所に関係なく、より大きなコラボレーションのためにフォルダ、プロジェクト、ビン、メディアを共有することができる。

Avid | On Demand クラウドサービスには、以下が含まれる:

- Avid | AI: Avid およびサードパーティの新しい機能スイートにより、クローズドキャプションの検証、言語の検出、顔の認識、シーンの検出、および音声からテキストへの変換など、コンテンツのインデックス自動化を実現。Avid | AI サービスには、以下が含まれる。
- AvidPhoneticSearch: Avid 独自の音声検索方法により、自動的にメディアのインデックスが作成され、ユーザーは単語やフレーズを入力して簡単にコンテンツを見つけることができる。
- Avid|IlluminateOnDemand: IlluminateOnDemand は、コンテンツサプライチェーンの一環として、字幕や言語の検証プロセスを自動化する。オンデマンドサービスとして実行することで、メディアのフルライブラリを迅速に分析し、時間、リソース、お金を節約するとともに、精度を大幅に向上させることができる。
- MicrosoftCognitiveServices: MediaCentral® の顧客は、Microsoft の Cognitive Services を利用することにより、顔検出、シーン認識、音声からテキストインデックス作成などの機械学習アルゴリズムを使用してコンテンツを自動索引付けし、容易に検索できる豊富なメタデータのライブラリを作成する。
- Avid | Transformation Services: コンテンツをトランスコードしてパッケージ化して、任意のプラットフォームに配信する一連のサービス。Avid Transformation services には、Microsoft Media Services などの Avid およびサードパーティのサービスが含まれる。

Avid | On Demand クラウドソリューションには、以下が含まれる:

- Shared Library On Demand: 強力なクラウドベースのメディアライブラリで、MediaCentral を使用してコンテンツを保存、管理、検索し、分散したクリエイティブチームを結ぶことができる。編集者、ログ担当者、ディレクター、プロデューサー、アーカイブ担当者はすべて共通のライブラリに接続できる。共通ライブラリを使用すると、どのデバイスからでもメディアにアクセスできるようになる。
- Editorial On Demand: 新しいシステムに投資して新しいシステムを構築するのではなく、新しいプロジェクトを処理する編集能力を増やす必要がある場合、必要な Avid Media Composer® ライセンスとストレージだけで Avid On Demand ダッシュボードからリソースを確保できる。その後、再び元に戻すことも可能。これら全て、完全に制御された安全な環境で行うことができる。

提供開始時期: Avid On Demand ソリューションとサービスは、2018 年の後半に Microsoft Azure でホストされる。

◆アビッドテクノロジー: ライブサウンドミキシングの画期的な統合プラットフォームを発表

数々の賞を受賞した VENUETM | S6L ライブサウンドシステムシリーズの大幅な拡張を発表した。3 機種の新しいコントロールサーフェス、1 機種の新しいエンジン、2 機種の新しい I/O ラック。そしてこれらは同一のプラットフォームで動作する。モジュラー性能と拡張性により、どのような規模のステージにも合致するフレキシビリティで、スペースサイズや、予算に応じて、VENUE | S6L は業界唯一無二の 100% ソフトウェア、ハードウェア、ショー・ファイルの互換性がすべてのシステム・コンポーネントで保証されたライブサウンドシ

テム。

Avid VENUE | S6L はモジュラー式のライブサウンドミキシングシステムで、様々なアプリケーションにおいて、クラス最高レベルの機能を実現する。それはコンサートツアー、フェスティバル、クラブ、劇場などの FOH コンソールとして、あるいはモニターコンソールとしてだけでなく、放送局や教会設備、企業イベントなどでも、その機能性を発揮する。この新しい発表によって VENUE | S6L は、どのような催しにもスケラブルに合致する、より多くのオプションコンポーネントを持つことになった。ユーザーは 5 機種のサーフェスの中から、自身のミックスに適したものを選択可能。新しい S6L-48D、S6L-24C、S6L-16C などが加わり 16 から 48 フェーダーの中で選択が可能。これらのサーフェスはさらに新しい E6L-112 も含んだ 3 機種のエンジンとの接続が選択できる。さらにそれらが、新しい Stage 32 や Local 16 を含む、4 機種の I/O ラックとの間に組み合わせて接続可能となる。

新しい VENUE | S6L システム・コンポーネント

VENUE | S6L システムには、コントロールサーフェス、エンジン、I/O ラックが含まれる。Avid は以下の新製品を発表した。

•新しいコントロールサーフェス:

- VENUE|S6L-48D: 48+2 フェーダー、160 アサインابل・ノブ、1 マスター・タッチスクリーン、5 チャンネルタッチモジュール
- VENUE|S6L-24C: 24+2 フェーダー、32 アサインابل・ノブ、1 マスター・タッチスクリーン
- VENUE|S6L-16C: 16+2 フェーダー、32 アサインابل・ノブ

•新しいエンジン:

- VENUE|E6L-112: 112 入力処理チャンネル、48 ミックス・バス + LCR

•新しい I/O ラック:

- Stage32—さまざまなアナログ I/O、デジタル I/O、Dante カード オプションから選択可能な最大 32 の入力/出力の組み合わせをサポート。小規模なステージに柔軟な I/O で対応、またはリモート I/O のニーズに対応
- Local16—8 アナログ入力、8 アナログ出力、8 AES デジタル入力/出力。コンパクトなパッケージで、コントロールサーフェス ローカル I/O を拡大

* オプションカードは、コアシステムには付随しておらず。別途購入が必要。

◆アビッドテクノロジー: Avid NEXIS | E5 NL ニアラインストレージソリューションを発表

メディアとエンターテインメントのプラットフォームである Avid NEXIS® | E5 NL ニアラインストレージソリューションを発表した。世界初のメディア向けソフトウェア定義のストレージプラットフォームである Avid NEXIS ファミリーに、この高密度のオンプレミスソリューションが追加されたことで、Avid のユーザーは、オンライン、ニアライン、およびアーカイブストレージリソース全体でメディアをシームレスかつ効率的に管理できるようになる。

Avid NEXIS | E5 NL は、Avid のメディアアプリケーション、サービス、ワークフローに緊密に統合されている。さらに、新しい Web ベースの Avid NEXIS 管理コンソールアプリによって、管

理、コントロール、Avid | NEXIS インストールのモニタリングが可能。Avid NEXIS | E5 NL は、MediaCentral® | Cloud UX および Media Composer® から簡単にアクセスが可能。さらに、MediaCentral | Production Management、MediaCentral | Asset Management、MediaCentral | Editorial Management と統合し、ピン共有を含むコラボレーションを加速する。拡張された Avid NEXIS | FS(ファイル・システム) を第二階層に使用することで、サードパーティのツールを使用して、複数のプールからメディアを検索、検索、インポートする必要がなくなり、ユーザーは操作全体に分散したコンテンツをより迅速かつ効率的に見つけることができる。

Avid NEXIS | E5 NL は、プロジェクトの一時保管、ステージングワークフロー、プロキシアーカイブ に理想的です。Avid NEXIS | E5 NL は、アクティブ資産と非アクティブ資産の間アクティブアセット と非アクティブアセット間のワークフローを合理化し、メディア組織が資産アセットや完成したプロジェクトを高密度ニアラインストレージに保存し、再発見再活用や再利用のために容易に手に入れることができる。最大 8 台の Avid NEXIS | E5 NL エンジン、1 つの仮想化ストレージプールとして統合することができ、一時保管された資産アセットやプロジェクトをチームが容易に見つけてアクセスできるようにする。さらに、他の Avid NEXIS Enterprise エンジン、単一のストレージプールに統合することができ、ストレージをより効率的なアーカイブ構成に分割することができる。

Avid NEXIS | E5 NL の追加機能:

- MediaCentral | Cloud UX に合わせて更新されたマネージメント・コンソールを使用して Avid NEXIS を設定、制御、監視する機能が追加。そのダッシュボードには、システムのパフォーマンス、帯域幅、ステータス、およびワークスペース、ストレージ・グループ、ユーザー・アクセス、通知などの機能をすばやく構成および管理することができる。HTML5 の柔軟性とセキュリティにより、モバイルデバイスのサポートが可能になり、ユーザーは外出先でシステムを監視して設定することができる。
- 複数の Avid NEXIS を接続することで、容量は 480 TB から 7 PB 以上のスケーラビリティを実現する。E5 NL エンジン、スケーラビリティの高い、より低コストのセカンダリストレージの 1 つのニアラインシステムとして統合されている。
- 必要な容量とフォールトトレランス機能を備えた柔軟なストレージインフラストラクチャ

【問い合わせ先】

アビッドテクノロジー株式会社
Mail:kenta.otsuka@avid.com

◆キャノン：CINEMA EOS SYSTEM の最上位機種 “EOS C700 FF” を発売

映像制作機器 CINEMA EOS SYSTEM の新製品として、デジタルシネマカメラ 最上位機種 “EOS C700 FF/EOS C700 FF PL” を 2018 年 7 月中旬より発売する。新製品は、「EOS C700」(2016 年 12 月発売) の優れた基本性能やモジュールデザインを継承しつつ、新開発のフルサイズセンサーを搭載したデジタルシネマカメラ。低ノイズ・高感度の高画質な 4K 映像を撮影でき、ハリウッド映画に代表さ

れる映像制作業界をはじめ、映画、ドラマ、テレビ CM、ミュージックビデオなど、映像制作現場におけるプロの高いニーズに応える。

■新開発のフルサイズセンサーにより高画質で撮影が可能

デジタルシネマカメラ用に新開発された 38.1 × 20.1mm のフルサイズセンサーを搭載しており、センサーから得られる豊かな映像情報を活用し、オーバーサンプリングによる 4K/60P 映像の本体内部記録が可能。さらなる低ノイズ、15 ストップを超える広い階調性、次世代放送規格「ITU-R BT.2020」を上回る色域を備えており、高画質な映像表現を実現している。また、「デュアルピクセル CMOS AF」により、高い合焦精度が求められる撮影時でも、撮影スタイルに合わせて高精度なピント調整をすることができる。

■プロの映像制作ニーズに応える多彩な映像表現を実現

映画特有の 2.39:1 のアスペクト比で映像を撮影できるアナモフィックレンズに対応するほか、70 種類以上の EF レンズ・EF シネマレンズとの組み合わせにより、高画質で多彩な描写力を発揮する。スーパー 35mm より大型のフルサイズセンサーと、高い光学性能を持つレンズを組み合わせることで、より被写界深度の浅い美しいボケ味を生かした印象的な映像表現を実現する。

■快適なワークフローを実現する多彩なビデオフォーマットに対応
動画データを圧縮し効率的に記録するキャノン独自のビデオフォーマット「XF-AVC」に加え、汎用性の高い圧縮フォーマット「Apple ProRes」に対応。また、Codex 社製のレコーダー「CDX-36150」を装着することで、最大 5.9K/60P の RAW 記録が可能。

◆キャノン：4K 放送用カメラ対応ポータブルズームレンズ 3 機種を発売「UHDgc」シリーズとして高い機動性と運用性を実現

2/3 型センサー搭載の 4K 放送用カメラに対応するポータブルズームレンズの新製品として「CJ24e × 7.5B」、「CJ14e × 4.3B」、「CJ18e × 7.6B」の 3 機種を 2018 年 6 月下旬より順次発売する。新製品 3 機種は、光学性能を重視した従来の「UHDxs」シリーズに加えて新たに展開する「UHDgc」シリーズの製品で、高い機動性と HD 放送用カメラ対応ポータブルズームレンズと同じ運用性を実現することを重視している。4K に対応する光学性能を持ちながら、小型・軽量な筐体(きょうたい)を実現し、ドキュメンタリーや各種イベント撮影などの映像制作や、報道などにおけるさまざまなニーズに応える。

蛍石や UD ガラスを採用するとともに、それらを最適配置する独自の光学設計技術を用いることで、ズーム全域で 4K 光学性能を達成している。また、ITU-R BT.2020 の色域対応により、色収差を良好に補正し、高品位な映像撮影に貢献する。

■HD 放送用カメラ対応ポータブルズームレンズ同等の高い機動性と運用性

4K 光学性能を実現しながら HD 放送用カメラ対応レンズと同等の小型・軽量な筐体を実現することで、高い機動性を確保するとともに、





CJ24e x 7.5B
(倍率 24 倍 / 焦点距離 7.5~180mm)



CJ14e x 4.3B
(倍率 14 倍 / 焦点距離 4.3~60mm)



CJ18e x 7.6B
(倍率 18 倍 / 焦点距離 7.6~137mm)

撮影に伴うユーザーの負担を軽減する。さらに、HD 放送用カメラ対応ポータブルズームレンズと同等の運用性と操作性を実現している。

◆キヤノン：4K 放送用カメラ対応フィールドズームレンズのラインアップを拡充 高い機動性を備えた中望遠レンズ“UHD-DIGISUPER 66”を発売

4K 放送用カメラに対応するフィールドズームレンズ“UHD-DIGISUPER 66”を 2018 年 8 月下旬より発売する。



新製品は、2/3 型センサーを搭載した 4K 放送用カメラに対応する

光学性能でありながら、倍率 66 倍で焦点距離 600mm の中望遠撮影に対応しており、幅広いシーンでの活用が可能。また、シフト式光学防振機構の搭載に加え、従来の HDTV 放送用フィールドズームレンズと同等の機動性と運用性を兼ね備えており、屋内外でのスポーツ中継や中規模中継車などでの使用においても取り回しが良く、安定した映像を提供することができる。キヤノンは、4K 放送用カメラに対応するフィールドズームレンズのラインアップを拡充することで、幅広いユーザーの要望に応えていく。

■ 4K 放送用カメラに対応する優れた光学性能と実用的な焦点距離

画面の中心部から周辺部に至るまで 4K 放送用カメラに対応する優れた光学性能を持ちながら、広角 9mm から望遠 600mm の焦点距離に対応しており、66 倍ズームを実現している。さらに、焦点距離を 2 倍に引き上げるエクステンダーをレンズ本体に内蔵し、望遠端 1200mm までの撮影領域でも、4K 放送用カメラに対応した高精細な映像の撮影が可能。

■ HDTV 放送用フィールドズームレンズ同等の高い機動性と運用性

4K 放送用カメラに対応する光学性能を持ち、かつ高倍率ズームが可能でありながら、従来の 2/3 型 HDTV 放送用フィールドズームレンズ同等の高い機動性を実現しており、従来の撮影スタイルを継承しながら 4K 制作への移行が可能。また、キヤノン独自のシフト式光学防振機構を搭載しており、わずかな揺れも映像に影響を与えるシビアな 4K 撮影時においても揺れの少ない滑らかな映像を提供することができる。

◆キヤノン：世界的に権威のある「TIPA アワード」を 24 年連続で受賞

キヤノンのデジタルカメラ 4 機種と交換レンズ 1 機種、アクセサリ 1 機種の合計 6 機種が、世界的に権威のある写真・映像関連の賞「TIPA アワード 2018」において、最優秀賞を受賞した。これにより、キヤノンは 24 年連続で「TIPA アワード」を受賞したことになる。

■ 「TIPA アワード 2018」最優秀賞受賞製品 (6 件)

Best Full-Frame DSLR Expert 部門 EOS 6D Mark II
Best DSLR Enthusiast 部門 EOS 200D

Best Mirrorless CSC Enthusiast 部門 EOS M50

Best Professional Compact Camera 部門 PowerShot G1 X Mark III

Best DSLR Prime Lens 部門 EF85mm f/1.4L IS USM

Best Photo Innovation 部門 Speedlite 470EX-AI

<参考>「TIPA アワード」とは：「TIPA(Technical Image Press Association)」は、欧州を中心とした 14 カ国・地域のカメラ、ビデオなどの分野における主要な専門誌、30 誌が加盟している業界団体。

「TIPA アワード」は、同団体が毎年、過去 1 年間に発表された写真・映像関連製品の中から、革新性・技術力・デザイン・使いやすさなどの観点で選定した、その年を代表する優れた製品・技術に対して贈られる賞。

【問い合わせ先】

キヤノン株式会社

Tel:03-5482-8565

◆ソニー：「Sony World Photography Awards 2018」受賞作品を発表

「Sony World Photography Awards 2018」の授賞式が 4 月 19 日 (木) に英国・ロンドンで開催され、受賞作品が発表された。同コンテストは、世界最大規模で、World Photography Organisation (会長スコット・グレイ氏) が主催し、写真文化の継続的な発展を目的に毎年開催されている。ソニーは 2007 年よりスポンサーとしてこの活動を支援しているが、今後もこの支援を通じて、創造性の高い作品を世に広める場を提供し、写真文化の継続的な発展に貢献していく。

今年で 11 回目を迎える「Sony World Photography Awards 2018」は、プロフェッショナル (10 カテゴリー)、一般公募 (10 カテゴリー)、ユース、学生フォーカスの 4 部門で構成されている。世界 200 以上の国と地域のプロフェッショナルおよびアマチュアのフォトグラファーから約 32 万点の応募があり、その中からプロフェッショナル部門および一般公募部門の最優秀賞と、プロフェッショナル部門の各カテゴリー受賞作品が発表された。今回は、日本人 2 名も最終候補者に選ばれた。さらに、一般公募作品の中から応募者の出身国ごとに独自の選考を行うナショナルアワードも発表され、63 名が受賞した。

なお、受賞作品を鑑賞できる作品展は、4 月 20 日 (金) から 5 月 6 日 (日) まで英国・ロンドンのサマーセットハウスにて開催します。同時に、特別功労賞 (Outstanding Contribution to Photography) を受賞した、ドイツのフォトグラファーである Candida Hofer 氏の作品も特別展示する。

◆ソニー：読みやすさと書き味を追求した、小型 A5 サイズのデジタルペーパー『DPT-CP1』を発売

ソニーは、電子文書をまるで紙のように読み書きできることを追求した、小型 A5 サイズ相当のデジタルペーパー『DPT-CP1』を発売する。

本機の発売により、デジタルペーパーの商品構成は、A4 サイズ相当の『DPT-RP1』(既発売) と合わせて 2 機種になる。

『DPT-CP1』は、質量約 240g、厚さ約 5.9mm で、A5 サイズ相当となる 10.3 インチ (1404 × 1872 ドット) の高解像度電子ペーパー

ディスプレイを搭載した、世界最薄最軽量のデジタル端末。独自開発ノンスリップパネルの採用により、ペン先の滑りを抑え、適度な抵抗感を持たせることで、紙により近い書き心地を実現している。内蔵メモリーには、約1万ファイルのPDFドキュメントを保存でき、大量の電子文書を手軽に持ち運ぶことが可能。また、静電容量方式タッチパネルシステムと、充電式アクティブスタイラスペンとの組み合わせにより、画面の中心から端まで精度の高い描画を実現している。発売は6月中旬で価格はオープン。

◆ソニー：世界最大規模のデザインイベント『ミラノデザインウィーク』に出展

2018年4月17日～22日にイタリア・ミラノで開催される世界最大規模のデザインイベント「ミラノデザインウィーク2018」に出展いたします。Hidden Sensesというコンセプトのもと、ソニーらしいストーリーを持ったプロダクトや空間を通して、人や生活に寄り添う新たなテクノロジーの在り方を提案した。



会場は5つのケーススタディー(展示)から構成されており、各展示を通じて「Hidden Senses (隠された感覚)」が段階的に明らかになっていく。展示は、歩く、触れるといった日常での行動によるインプットとそれに呼応する純粋な音の体験から始まる。

各ケーススタディーで様々な体験を提示し、最後は各ケーススタディーを実際の生活空間に溶け込ませたコンセプト展示で締めくくった。

【問い合わせ先】

ソニー株式会社

Mail:Sony.Pressroom@sony.co.jp

◆朋栄：内覧会を開催 IP/12G-SDI対応製品など最新ソリューションを展示

2018年5月17日(木)・18日(金)の2日間、朋栄本社(東京都渋谷区恵比寿3-8-1)にて内覧会を実施する。本内覧会では、米国ラスベガスにて開催された2018 NAB SHOWに出展した製品から、4K、12G-SDI、IP、HDR、広色域等に関連した新製品を中心に展示を行う予定。また、セキュリティ関連製品 展示エリアを設け、各種製品を展示する。主な展示内容は以下の通り。

■ビデオスイッチャー 12G-SDI対応モデルを一堂に展示。

- ・3M/E ハイエンドモデル:HVS-6000 (新製品)
- ・2M/E モデル:HVS-6000M (参考展示)
- ・1M/E コンパクトモデル:HVS-1200 (参考展示)
- ・デジタルスーパーキーヤー:DSK-4800 (参考展示)

■ルーティングスイッチャー 12G-SDI対応モデルを一堂に展示。

- ・大型モデル:MFR-6000 (144x144) (新製品)
- ・中型モデル:MFR-4000 (72x72)
- ・小型モデル:MFR-1000 (16x16) (参考展示)
- ・12G/Quad-link 3G コンバーター:MFC-2GB

■マルチビューワー マルチビューワーラインアップを展示。

- ・12G対応マルチビューワー:MV-4000 シリーズ
- ・4K対応マルチビューワー:MV-1200 ほか
- シグナルプロセッサ・フレームレートコンバーター
 - ・12G/HDR対応シグナルプロセッサ:FA-9600 (新機能:Video Payload IDによるモニター設定の連動切り替え)
 - ・12G/HDR対応アップ/ダウンコンバーター:USF-106UDC-12G
 - ・12G/HDR対応ダウンコンバーター:USF-106DC-12G
 - ・12G対応信号分配器:USF-106DDA-12G
 - ・4K対応フレームレートコンバーター:FRC-9000
 - ・12G対応フレームレートコンバーター:MCC-4K
 - ・12G対応ダウンコンバーター:IF-4K-DCN

■株式会社朋栄YEM エレテックス製品

- ・12G/IP対応テスト信号発生器:ESG-4200 (参考展示)
- ・4K対応テスト信号発生器:ESG-4000 シリーズ
- ・8K/4K/HD対応HDR/SDR相互変換器:LMCC-8000A*
- ・4K対応映像/音声遅延装置:EDA-2000
- ・4K対応映像/音声遅延測定器:EDD-5400 (参考展示)

*LMCC-8000Aは日本放送協会との共同開発製品。

■高速度カメラ・周辺機器

- ・8K対応高速度カメラ:FT-ONE-SS8K (参考展示)
- ・4K対応高速度カメラ:FT-ONE-SS4K (参考展示)
- ・12G対応高速度カメラ:FT-ONE-LS-12G マネージメント
- ・自動追尾機能搭載4K切り出し装置:ZE-ONEA
- ・リアルタイムフラッシュ光補正装置:RFC-ONE
- ・マルチチャンネルカラーコレクター:DCC-8000 (参考展示)
- ・選手トラッキング装置:KTS-43 (参考展示)

■ビデオサーバー・12G対応マルチチャンネルビデオサーバー:MBP-1000VS-12G

- ・XAVC Long422相当対応インジェストレコーダー:MXR-400

■アーカイブ/バックアップ・LTO-8対応サーバー:LTS-80

- ・4K/HD素材伝送システム:IFT-40

■IP関連・IP相互変換、IP/SDIゲートウェイ:USF-10IPシリーズ

- IP対応マルチチャンネルビデオサーバー: MBP-1000VS-IP

- ・IP対応テロップ送出機:VWS-1000-IP

- ・ベースバンド/IP統合管理・監視・制御ソフトウェア (参考展示)

■テロップ・字幕関連

- ・12G対応テロップ送出機:VWS-1000-12G

- ・8K/4K対応字幕制作システム:NeON-SHV*

- ・MXF字幕ソフトウェア (参考展示)

- ・4K対応ビデオライター:FVW-700-4K

*NeON-SHVは日本放送協会様との共同開発製品。

■バーチャル関連

- ・バーチャルシステムソフトウェア:eStudio ver.1.5

[スペインBrainstorm Multimedia社]

- ・高精度トラッキングシステム:StarTracker

[英国mo-sys Engineering社]

- ・センサーレスバーチャルスタジオシステム:VRCAM-NX

この他にも朋栄取り扱い海外メーカー製品や関連会社の機器も展示する。

◆朋栄：Dejero 社 中核ソフトウェアのアップデートを実施、ビデオ品質と効率を向上

株式会社朋栄が国内総販売代理店として取り扱っている、カナダ Dejero 社は、同社製品で利用しているソフトウェア「Core」の新バージョンを発表した。Core は、すべての Dejero トランスミッタとレシーバで動作し、複数のネットワークプロバイダからの IP 接続のインテリジェントで動的な接続を担う独自のテクノ



ロジーを備えている。最新バージョンである Core 5.0 は 2018 NAB Show で同社ブースに展示された。Dejero Core 5.0 は、高品質にビデオをエンコードし、複数の IP ストリームで確実に送信、低遅延で卓越した品質を提供する汎用性の高いモバイルトランスミッタ Dejero EnGo に HEVC コーデックサポートを追加した。EnGo は、業界最高峰のオート・トランスポートとアダプティブ・ビットレートエンコーディング技術（帯域幅が限られている場合に画質を最適化）に加え、最新の圧縮規格である HEVC を組み合わせることができる。HEVC 圧縮により、低ビットレート時においても高品質な映像を提供することが可能になる。Core 5.0 ソフトウェアのアップデートは対象のユーザーに無料で実施し、追加のハードウェアを購入する必要はない。

Core 5.0 は、Dejero EnGo、GoBox、および VSET トランスミッタ、Dejero Broadcast Server、Cloud Server および MultiPoint クラウドサービスに 1080/25p と 1080/30p のフォーマットも追加する。新製品である HEVC 対応 PathWay ラックマウントエンコーダ/トランスミッタと WayPoint レシーバは、1080/25p/30p/50p/60p フォーマットをサポートする。追加されたフレームレートにより、スポーツおよび eSports の取材等の現場から、滑らかで高品質な映像を提供可能。

Dejero Core 5.0 ソフトウェアは、HEVC とフレームレートの強化に加え、現場のオペレーターがトランスミッタに記録されたクリップ名を変更できるため、放送局での検索と管理が容易になる。さらに 12Mbps と 15Mbps で記録するオプションも追加され、録画映像としても高画質なコンテンツを提供する。Dejero トランスミッタの大容量ストレージは、これらの高品質記録に十分な容量を有している。

【問い合わせ先】

株式会社朋栄

TEL:03-3446-3121

◆リーダー電子：コーポレートロゴと WEB サイトをリニューアル

リーダー電子は自社のコーポレートロゴを変更し、合わせてウェブサイトリニューアルした。またロゴのアクセントとしてリーダー電子の思いを表現した「リーダーブルー／L パターン」をデザインした。リーダーブルーとは、地球をイメージした青。L パターンは、「L」を

リーダーブルーの直線で表現したグラフィック。

水平の線は、彼らの可能性と未来が永遠であることを意味し、地球が自転する軸と同じ 23.4 度に傾いた線は、彼らが軸となり、豊かな社会づくりに貢献したいという思いを表現している。



【問い合わせ先】

リーダー電子株式会社

TEL:045-541-2228

◆ドルビー・ジャパン：日本初となる Dolby Cinema 導入に向けて株式会社松竹マルチプレックスシアターズと契約締結

ルビーラボラトリーズは、株式会社松竹マルチプレックスシアターズと日本初となる「ドルビーシネマ」を劇場導入する契約を締結した。2018 年内、MOVIX さいたまへの導入を皮切りに順次導入を進めていく。

ドルビーの最新鋭シネマ技術であるドルビーシネマは、最先端の映像技術「Dolby Vision™(ドルビービジョン)」と立体音響技術の「Dolby Atmos®(ドルビーアトモス)」を採用し、さらにシネマ体験に最適化されたシアターデザイン(インテリアカラー、空間デザイン、座席アレンジメント)がこれらの技術と一体となって、アクションやストーリーをより豊かに観客に届け、まるでスクリーン上の世界にいるような感覚を味わえる。

現在、北米からヨーロッパ、中国に至るまでの世界中のエンタテインメント企業がドルビーシネマを採用しており、世界中の映画ファンから圧倒的な支持を得ている。

音響技術のドルビーアトモスは既に日本の映画館に導入されているが、最適化した同技術と映像技術のドルビービジョン、そして卓越したシアターデザインを高次元に融合したドルビーシネマが初めて日本で体験できるようになる。

【問い合わせ先】

ドルビー・ジャパン株式会社

TEL:080-8814-7371

◆エレクトロ：Radial Engineering 社新製品 MIX2:1 を発売

MIX 2:1 は、2 つのオーディオ信号を 1 つの出力にミックスする便利なミキサー。これにより、コンソール、オーディオ・インターフェイス、またはポータブル・プレーヤーのステレオ出力を簡単にモノ・ミックスし、さらにミックスする 2 つの信号のバランスを調整することができる。

製品名 MIX 2:1

希望小売価格 税抜定価 ¥23,800 (税込み定価 ¥25,704)

製品コード EAN: 0676101044658

出荷開始日 2018 年 4 月 3 日

【問い合わせ先】

株式会社エレクトロ

TEL:03-3530-6181
